

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23019

建築物名称	C'zPRO川崎子母口店
建築主	株式会社カインズ 代表取締役社長 高家 正行
建築物の所在地	川崎市高津区子母口字新田町532、535
設計者氏名、建築士事務所名	岸 裕之 株式会社岸設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,259.40㎡
用途	物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了予定年月	令和6年6月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	C'zPRO川崎子母口店	階数	地上2F
建設地	川崎市高津区子母口字新田町532、535	構造	S造
用途地域	準住居地域・第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年8月28日
敷地面積	1,953 m ²	作成者	株式会社 岸設計 益田
建築面積	1,203 m ²	確認日	2023年8月28日
延床面積	2,259 m ²	確認者	株式会社 岸設計 益田

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.7/4.3	2.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.3
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		2.3/5.0	2.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.6/4.7	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.2/4.0	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		2.3/5.0	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		2.3/5.0	2.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
						1.0	0.15	-	-	1.0
1.1 室内騒音レベル						1.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境										
						1.0	0.35	-	-	1.0
2.1 室温制御						1.0	0.50	-	-	
1 室温						1.0	0.50	3.0	-	
2 外皮性能						1.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性						1.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境										
						3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用						3.0	0.50	-	-	
1 昼光率						3.0	-	3.0	-	
2 方位別開口						3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	1.00	3.0	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1 昼光制御						3.0	-	3.0	-	
3.3 照度						3.0	-	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.50	3.0	-	
4 空気質環境										
						3.2	0.25	-	-	3.2
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						5.0	0.50	-	-	
建物内禁煙						5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能										
						-	0.30	-	-	3.0
1 機能性										
						3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画						3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性										
						2.6	0.30	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						1.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性								3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり								4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり								5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ								4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり								3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性								3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	G	W		H	-			2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G				-			2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮					-			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上					-			2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H	-			2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	2.5
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	2.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H	-			1.3	0.20	-	-	1.3
2	自然エネルギー利用		W		H	-			3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W		H	-			2.3	0.50	-	-	2.3
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H	-			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H	-			3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H	-			3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H	-			3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		W		R	-			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水					-			1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用					-			3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無					-			3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無					-			3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減		W		R	-			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R	-			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R	-			3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								2.6	0.20	-	-	2.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用					-			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避					-			2.5	0.70	-	-	
	1 消火剤		W			-			-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W			-			2.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W			-			3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	2.5
1	地球温暖化への配慮		W						3.1	0.33	-	-	3.1
	CO2を削減しました。								3.1	0.33	-	-	3.1
2	地域環境への配慮								2.3	0.33	-	-	2.3
	2.1 大気汚染防止					-			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H	-			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減				R	-			3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制				R	-			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制				R	-			2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制				R	-			1.0	0.25	-	-	
	来店客の利便性を考慮し駐車台数を設定								1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								2.1	0.33	-	-	2.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音					-			3.0	0.33	-	-	
	2 振動					-			3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭					-			3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								1.6	0.40	-	-	
	1 風害の抑制					-			1.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制					-			3.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制					-			3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								1.6	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-			1.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-			3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0		○	○	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		○	○	-	-	-	-	○	-	○	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-					
2.4.2 給排水・衛生設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.4.5 通信・情報設備	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-					
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-					
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	1.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-		
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-					
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-					
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-					

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC- 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 昼光率 1.5% 自然換気有効開口率 3.3%
3.1.1 昼光率	昼光率 1.5%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口率 3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.22 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 13.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 4000 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 31% 建物緑化指数 5%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 38% 水平投影面積率 11% 地表面対策面積率 15% 舗装面積率 26%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 1.02 片熱等性能等級 等級2 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.94 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP) 1430
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 88% 棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 26.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b 500㎡ 越風向と直交する最大敷地幅W _s 34 m 基準高さH _b 16.58 m 緑地 103㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡